

## 20. 田平の貝化石帯

- 地域 南高来郡北有馬町  
交通 島原鉄道 北有馬駅下車  
地形図 三角・口之津・島原 (1/50,000)

北有馬駅から沖積平野を北へ川ぞいに進むと、史蹟「日之江城跡」の北東崖・図1の①に着く。日之江城跡の崖から田平小学校付近にかけては洪積世前期の口之津層群北有馬層の固結度の低い砂質シルト～砂れき質の海成層が分布しており、貝化石および有孔虫化石の産地として知られている。化石は川の西側および上流域の砂れき質の地層に多いので、この方面を歩くことにする。

図1の①および②の近くの川床からは巻貝のノミナ・二枚貝のヤグラニシキ(絶滅種)(図2)や腕足類のコカメガイなどの比較的小型の化石が産出する。川ぞいにさらに北上すると田平小学校がある。この南側の崖③では砂れき質の部分よりマガキ・ヤグラニシキが多産する。④の細い道の崖にマガキの密集帯がある。ここは化石も採集し易く観察も容易なので化石の学習には好適な場所といえよう。密集帯の崖は、高さ2m以上で下部の砂れき質は上部の砂質シルトに漸移している。マガキの殻は5～10cmぐらいのものが多く1枚1枚ばらばらで、大部分は横になった姿勢で埋没しており、垂直に立っているものはないようである。砂質シルトの部分には小型の化石が点在し、マガキは粒子のあらい砂れき質の部分に集中している。このように化石が大きさによってふるいわけられたような状態は、泥・砂・れきと共に堆積物の一員として水で流されたことを示していて、化石のもつ「二重人格者」としての側面をのぞかせているようであり、おもしろい。

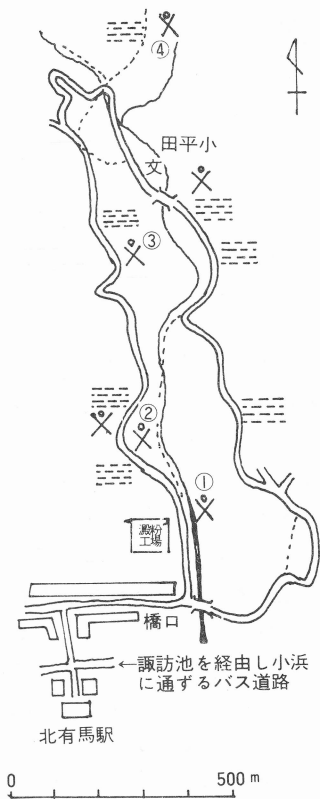
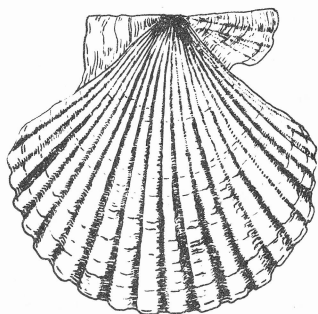


図1 北有馬町田平の化石帯ルートマップ



*Chlamys yagurwai*  
(ヤグラニシキ)

図2 田平化石帯より産出する二枚貝化石

海成層から産出する化石は、堆積した時代が比較的新しいためか、石化しておらず遺がいがそのまま埋没した状態である。また貝化石には汽水性のマガキ、ヤマトシジミがみられ、有孔虫化石としては汽水性のキスイコマハリガイ、暖浅海内湾性のヒラマキハリガイが産出することから海成層は汽水～内湾域の堆積物と推定される。この地域一帯はかつての海底が隆起してできたものであり、地球の秘めている偉大なるエネルギーにおどろくばかりである。

(早田常盤)